

世界旅しながら講義

海外6校が「船上大学」

沖繩にも寄港

世界を旅する専用客船で各国の学生たちと生活を共にし、専門的な講義や課外学習でリーダーシップを養う。米国のカリフォルニア大学バークリー校など六カ国の有名大学が協力し、こんな教育プログラム「ザ・スカラー・シップ」を開発した。費用は約二万ドル（二百数十万円）。二〇〇七年秋スタートの第一回航海の参加者を募集中で、アジア・パシフィック事務所

のピーター・ゲイニー所長は「文化や社会背景の壁を越えて能力を発揮し、国際的な企業、機関で活躍するために、豊かな経験の場になるはず」と話している。

米国のほか中国、メキシコ、オーストラリア、モロッコ、ガーナの六大学が約百人の教授団を派遣。「国際ビジネス」「紛争研究」などの研究課題に応じ、大学や大学院レベルの講義が英語で行われる。修了者には、マツコーリー大（オーストラリア）が履修単位や修了証書を授与する。

寄港地八カ所のうち最低三方所で、現地の実情に触れる課外学習を必修としたのも特徴。例えば第二回航海（〇八年）で立ち寄るケープタウン（南アフリカ）では、人種隔離政策に抵抗したマンデラ前大統領を収監した収容所跡を訪問、元政治犯の証言を聞き、政府高官と懇談するという。個人の興味、関心に基づく調査なども支援する。

参加希望者は、英文のエッセーや英語検定試験の結果などを添え、〇七年四月末までに公式サイト（<http://www.thescholarship.com>）を通じて出願するか、サート掲載の願書をマツコーリー大の事務局に郵送する。日本での問い合わせ先はアルク・グローバルパートナーズ留学サポートセンター、電話03(5325)6406。

第一回航海は〇七年九月にピレウス（ギリシヤ）を出港。地中海と大西洋を横断し、パナマ運河を通り南太平洋の島々へ。シドニー（オーストラリア）、上海（中国）などに寄り、沖繩を経て同十二月に神戸港に入る。

「ザ・スカラー・シップ」第1回航海のルート



「ザ・スカラー・シップ」第1回航海のルート